

令和4年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特2			学校名		県立水戸聾学校										学校長名		奥岡 智博				
教頭名	遠藤 典子															事務(室)長名		月井 敬一				
教職員数	教諭	49	養護(助)教諭	2	栄養教諭	1	常勤講師	9	非常勤講師	1	実習助手等	4	寄宿舎指導員	17	事務職員	4	技術職員等	3	嘱託	11	計	104
幼児・児童・生徒数	部	1年(3歳児)		2年(4歳児)		3年(5歳児)		4年		5年		6年		合計		合計						
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	幼稚園	2	0	2	1	5	2									9	3				3	
	小学部	6	3	3	0	4	4	1	1	1	1	4	3	19	12			10				
	中学部	0	0	5	3	3	3							8	6			4				
	高等部	2	3	5	5	4	3							11	11			6				
	高等部専攻科																					

2 目指す学校像

○安全・安心であたたかな学校 ○一人一人のよさや可能性を大切にす学校 ○互いに学び合い、高め合う学校 ○家庭・地域社会と連携し、信頼される学校

3 現状分析と課題(数量的な分析を含む)

項 目	現 状 分 析	課 題
企画会	企画会において、各部、係と連携しながら、学校全体に関する諸問題に組織的に対応している。Classroomを利用し、事前に情報共有することで、会議回数の削減や時間の短縮に努めている。新学習指導要領実施に向けて、各学部や学習指導部と連携し、個別の指導計画の様式の見直し、道徳全体計画の導入、自立活動の目標設定シートやキャリアパスポートの活用を進めてきた。今後も使いやすく効果的な活用が図れるよう見直し改善に努める(年間指導計画の様式見直し予定)。「さらに連絡網」による文書のデータ配布や「Googleフォーム」を使った欠席・遅刻連絡など、ICTの効果的な活用により、校務の削減を図り、働き方改革にもつなげている。今後も学校行事の見直しや校務の精選を企画会を中心に、継続して検討していく。	昨年度大幅に減らした会議回数は、今年度さらに削減できた。企画会の回数は、昨年度の同時期(12月初旬)に比べて5回減らすことができた。学習指導部を中心に、年間指導計画の様式の見直しと道徳の別業の作成を進めて次年度から運用できる見通しができた。現在、県の統合型校務支援システムの4月からの導入に向けた準備を進めている。Withコロナに向けて、コロナ禍でも実施可能な形に代えながら実施できた学校行事が増えたが、対費用効果の視点も入れながら反省をまとめ、行事の見直し・精選を進めていく必要がある。
学習指導	各種検定試験及び各種作品展への出品を実施し、学習に対する意欲と自信に繋がるように努めている。実態把握のための諸検査が円滑に実施できるよう、検査器具の管理に努めている。教科会を組織し、教員の指導力向上に努めている。また、魅力ある図書館となるような環境作りや、読書指導の充実を図っている。情報セキュリティ内規に基づいた諸機器の適切な管理運用と、インターネットによる外部への情報発信、ICT活用の研修と運用を行っている。更に、指導者用タブレットの導入に伴い、GIGAスクール構想に基づいたICT活用や校務の効率化を推進するための整備・研修・技術的支援を継続していく。	情報教育係を中心に各学部で研修を行い、授業や校務へのICT活用の推進を図ることができた。また、年間指導計画の新規書式への書き換えや作成時期の見直しを通じ、本校における年間指導計画の在り方について整理することができた。次年度は、重複学年年計における系統性の検討や、総合的な学習の時間における学習課題の検討、その他各教科における課題の検討を教科会と連携し、行っていくたい。
生徒指導	スマホ家庭のルールづくり運動を実施し、スマートフォン等の適切な利用やトラブルを回避する能力を身に付け、家庭でも機器の利用状況が把握できるようにしている。また、インターネット上のトラブルやSNSの利用に起因した犯罪から子どもたちを守る対策としての研修の充実を図っている。学校生活アンケートの実施、他の分掌と連携を図り、相談窓口を設置するなど、いじめの早期発見ができるよう努めている。週の始めに立哨指導を行うことで、児童生徒が安全で安心な通学ができるように努めている。マナーアップ週間を設定し、児童会・生徒会が中心となり、あいさつ運動や生活習慣の定着を図っている。	年間2回の学校生活アンケートでは、1回目の反省を活かし、特に小学部低学年のスマートフォン所持や利用内容について実態を把握することができた。次年度に向けて、アンケート内容をいじめの早期発見につながる項目で様式の見直しを行い運用していきたい。引き続き課題として挙げられることは、SNSの使用方法であり、外部講師の講座を計画し、長期休業前に実施していきたい。
研究・研修	「深い学びの実現に向けた協働的活動の在り方」を学校研究テーマとして設定し、今年度から2年間にかけて各都ごとに系統性のあるテーマを決めて研修を行っている。また、学校における自立活動の指導力向上を目的として、月に一度の自立活動研修を行い、自立活動目標設定シートの活用や、各部における自立活動の指導についての研修を行っている。手話通訳とUDLワークによる会議での情報保障や、手話の普及を目的とした職員向けの手話の勉強会を開催している。	各部の研究の進捗状況を報告する機会を設けることで、情報交換を行うことができた。校内研修では、言語聴覚士を招き、外部機関との連携を行うことができた。来年度の課題は、校外の諸研究会などの広報活動(回覧・掲示・職員会議での周知)や校内研修の在り方を見直すことで、より効果的に校内研修を計画・実施を行う予定である。
進路指導	進路希望先が多様化する中、適切な進路決定ができるよう、大学や各種学校についての情報提供や模試の設定を担任と連携して進めている。また、主体的な進路選択ができる児童生徒を目指し、職場体験や企業見学、インターンシップの機会を設け、各都ごとに指導を進めている。今後は、職業観・勤労観の育成と自己理解を深めることを目標に、各部や学年に応じた計画的な進路学習について考えていく。さらに、オープンキャンパス、職場紹介などにおけるリモートの積極的な活用にも努める。	コロナ感染症の影響で、企業見学やインターンシップ等の実施に制限がかかり、生徒自身が希望する企業での体験が難しい状況もあったが、理解ある企業のご協力で中学部、高等部全員が体験することができた。また、オープンキャンパス等はリモートではなく実地訪問ができた。今後は、進路選択において自己理解が重要になることから、各学部をおとした計画的・継続的な進路学習の整備を行う予定である。
保健安全	学校保健給食委員会(2回/年)では、学校医や保護者等と、幼児児童生徒の安全のための方策を多角的な面から確認している。ヘルスケア安全委員会(3回/年、必要に応じて臨時)では食物アレルギーの給食対応等、配慮を要する幼児児童生徒の実態の共通理解を図り、適切な支援方法を検討している。学校(5回/年)、寄宿舎(5回/年)の避難訓練を計画し、学校全体の防災意識の向上を図っている。また、学校防災連絡協議会を年1回開催し、地域の防災関係機関との連携を図っている。新型コロナウィルス感染症対策については、学校医をはじめ、各務分掌との連携を図り、対応に努めている。	今年度は感染症対策を行った上で、PTA役員、学校医を交えての学校保健給食委員会、地域の方々と交えての学校防災連絡協議会を開催でき、本校の保健や防災に関する取り組みについて貴重なご意見をいただくことができた。また引き渡し訓練を2回に分けて行う等、避難訓練も計画通り実施することができた。来年度は、家庭や地域との連携がさらに図れるような取り組みを考えたたい。
渉 外	本部役員は、文化祭のPTAの催しの企画運営や全館P、開閉P、高P連、特P等の総会や研修会への参加等、校内と校外の活動を行っている。研修委員会は、講演会を実施する予定である。広報委員会は、号外と併せて年2回の発行を予定している。後援会はホームカミングデーの企画、実施に伴う助成を行っている。また、部活動等賛助会員の募集をはじめ、部活動またはその他の教育活動の支援等を行っている。これらの取組を、保護者と連携を図りながら取り組んでいく。	今年度PTAは文化祭への参加はできなかったが、特Pの総会・縮小理事会にリモートで参加した。研修委員会は、感染症対策を行った上で、講師を招き、対面での研修会を実施することができた。広報委員会も時間を短縮する工夫をしながら広報誌を作成している。現在、後援会のはの協力をうけ、ホームカミングデーの準備をしているところである。来年度に向けて部活動支援の取り組みを見直ししていきたい。
聴覚障害教育支援センター	通級による指導を受ける児童生徒21名、教育相談を受ける乳幼児児童生徒62名(うち乳幼児28名)の、本人と保護者それぞれの教育的ニーズに応じた支援を継続して行っている。聴覚障害のある乳幼児児童生徒が在籍する園や学校および教育委員会、保健・医療・福祉・労働などの関係機関と情報を共有しながら連携を図るとともに、聴覚障害教育への理解啓発に努めている。	聴覚障害のある乳幼児児童生徒やその保護者、また関係者などのニーズに応じて、来校相談や外出き相談、理解啓発授業や研修支援などを行った。聾学校から遠方に居住している聴覚児童生徒が、必要な支援を受けることができるように、教育委員会と連携し、支援体制を整えていく必要がある。

4 中期的目標

- 一人一人の発達段階や教育的ニーズに応じた教育を行うための、指導体制、指導方法、指導内容の工夫や研究及び専門性の向上に努める。
- 個々の聴覚を最大限に活かすとともに、適切な情報伝達手段の併用により豊かな日本語を習得することで、言語力やコミュニケーション力の向上を図る。
- 将来の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てるための系統性のあるキャリア教育の充実を図る。
- 地域や関係機関等のニーズに応じたセンターとしての役割の充実を図るとともに地域社会に貢献する。

5 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
1 安全・安心な学校、寄宿舎	①幼児児童生徒や保護者等との基本的信頼関係の構築 ②1頃からの防災教育の充実による防災意識の向上 ③適切なSNSの活用やいじめ防止の取組の推進(人権意識の高揚) ④安全管理・安全教育の推進(平時の危機管理、緊急時対応訓練等) ⑤徹底した感染症予防等による安全な教育活動の推進(オンラインによる活動の工夫)
2 授業力(構想と実践)・専門性の向上	⑥指導の個別化と学習の個性化を図った指導の充実と「協働的な学び」の推進 ⑦主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と3観点による学習評価の充実 ⑧時代の変化に対応した学習スタイルの充実(ICTの活用、プログラミング的思考等) ⑨目標設定シートにより根拠を明確にした自立活動の指導の充実(目標、内容の妥当性) ⑩多様な認知特性や学び方にあった指導の工夫(UDLの視点)
3 豊かな心や健やかな体を育む教育の推進	⑪間接的交流(オンライン等)を含めた効果的な交流及び共同学習の推進 ⑫体力向上にむけた個に応じた取組の工夫 ⑬養護教諭や栄養教諭と連携した健康教育や食育の推進 ⑭スポーツ・文化・芸術的活動(部活動含む)の充実 ⑮別業の整備と発達段階や特性等を考慮した「考え、議論する道徳」の推進
4 自立と社会参加にむけた教育の推進	⑯発達段階に応じた基本的な生活習慣の確立(あいさつ、報告、生活リズム、時間管理等) ⑰各部の系統性をふまえたキャリア教育の推進(キャリアパスポートの活用の工夫) ⑱自己理解を深め、主体的な進路選択を促す職業教育やシティズンシップ教育の充実 ⑲高等部学科改編に係る諸検討・整備の推進 ⑳指導員間の連携による自治会活動の充実と主体性、協働性を促す生活指導の工夫<寄宿舎>
5 センターの機能の充実、地域・関係機関との連携	㉑「聴覚障害教育支援センター」としての支援体制の強化と理解啓発 ㉒各種相談支援(早期教育含む)等におけるアセスメントに基づく指導助言の充実 ㉓個別の指導計画の機能的活用と在籍校との連携を図った通級指導教室の充実 ㉔地域や企業等、地域資源を活用した学習活動の積極的な取組(見学、実習等) ㉕HPの充実とPTA、同窓会、各関係機関等と連携した活動の推進